

新連載
年を重ねるとのこと
第1回
「認知症と介護」

高知県須崎福音キリスト教会牧師 柿谷 孝子
ベテルホームすさき施設長



厚生労働省の情報では、二〇二五年には認知症患者数は七百三十万人前後に達し、六十五歳以上の高齢者の約四人に一人を占め、二〇六〇年には三人に一人が見込まれるとのこと。よく耳にするのは、脳の衰えにより記憶できなくなったり、この物が何でどうやって使うのかが分からなくなる（失認失行^{しつじょう}）など。認知症状が出てくるのは、年を重ねて使いすぎて起こる膝痛のようなものだとされていることです。認知症とは、特別な人に起こる特別な出来事ではないことを知っておきましょう。



人を大切にすること

高齢社会となった長寿国日本は、今や介護社会とも言えるほどになっています。ところが、近年は子が親を介護する時代ではなくなっているのではないのでしょうか。ただ、介護で大事なことは、人を大切にすることです。聖書の中に次のような戒めがあります。「心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛し

老化と認知症の違い

さて、次に老化と認知症の違いを知っておきましょう。老化と認知症は混同されやすいですが、両者にははっきりと違いがあります。

老化による物忘れは一過性の物忘れで自覚があり、進行せず、生活に支障はありません。

これに対し、**認知症の症状は体験したことをすべて忘れる、自覚が少ない、進行するし変化する、生活に支障をきたす、などの違いがあります。**



認知症の種類について

次に認知症の種類を記しておきましょう。

①アルツハイマー型認知症（女性に多い）

脳の神経細胞の脱落、脳細胞（海馬部分）の死滅で脳が萎縮する。一般の人も脳細胞は加齢とともに減るが、アルツハイマーの場合は病的な速さ

なさい」（マタイの福音書22章37節）、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」（同39節）、「あなたの父と母を敬え」（エペソ人への手紙6章2節）。これらの御言葉のように、神と人を愛すること、父と母を敬うことが大事な戒めとなっています。介護放棄や育児放棄をする人も少なくない今日ですが、親はかつてはなりふり構わず子育てしてきたと思います。介護においても時には常識も世間体も習慣も通用せず、あくまでその個に向き合っただけ対応しなければならぬのではないのでしょうか。



愛し受け入れる

最も大切なことは、その人を愛する、受け止める、受け入れる、相手の今の状態を理解する、ということ。体裁より何より、その人のニーズを優先すること。何を訴え、要求し、困っているのかを知って、応じていきましょう。人は老若男女問わず、自分が大事にされている、尊ばれている、分かってくれていると知れば、心はうれしくな

り、満たされ穏やかになるのです。小さな言動でも、自分が疎かにされていると感じ取れば、寂しくなって不穏な行動が出てきます。これを周辺症状といえます。この症状は脳の障害により出てくるのですが、

①不安やうつ。できないことが増えて不安を感じ、うつとなっていく。

②徘徊（はいかい）。自分の行き先が分からない。記憶が保持できない。時間や場所、曜日も分からなくなる（見当識障害^{けんたうし}と言います）。そのためウロウロする。

③幻覚、錯覚。事実でないのにあるように見えてしまったり、事実のものを違ったものと思ってしまう。

④暴力、暴言。脳の障害で思うように言葉が出ず、不安と不満、苛立ち^{いらだち}を抑え切れず出る。怒りっぽくなる。暴れたりもする。

⑤睡眠障害。トイレが近くなり、眠りが浅くなる。体内時計の調節が上手くいかず、リズムが崩れやすい。起床時間を決め、目覚まし時計を使うのも良い。規則正しい生活をする。

⑥盗（と）られ妄想、せん妄、帰宅願望、異食行為（食べ物でないものを口にする。ちり紙や花など）、多弁、多動。どれも、優しく適切な対応や薬物により軽減できると思います。